

エコアクション21環境経営レポート

令和4年度

活動期間：令和4年5月～令和5年4月

令和5年5月22日

株式会社 牟田林業緑化

目次

1. 組織の概要	-----	1
2. 対象範囲	-----	2
3. 環境経営方針	-----	3
4. 環境経営目標	-----	4
5. 環境経営計画	-----	5
6. 環境経営目標に基づき実施した取組内容	-----	7
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容とその評価、 並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画	-----	8
8. 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	-----	13
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	-----	14

1. 組織の概要

(1)事業所名および代表者氏名

会社名：株式会社 牟田林業緑化

代表者名：代表取締役社長 牟田 儀宏

(2)所在地

本社：〒841-0087 佐賀県鳥栖市河内町1728-2

倉庫： //

資材置場：〒841-0086 佐賀県鳥栖市牛原町別石1105-1

(3)環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者及び連絡担当者：田中信貴

連絡先 TEL：0942-83-2917

FAX：0942-85-0061

E-mail：mutarin8@orion.ocn.ne.jp

(4)事業活動の概要

土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、管工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、造園工事業、水道施設工事業、解体工事業

(5)事業の規模

売上額：5億4百万円 (令和4年度)

区分	単位	本社	倉庫	資材置場	合計
従業員数	人	12	0	0	15
床面積	m ²	225	665	2,000	2,890

(6)事業年度

5月～翌4月

(7)法人設立年月日

平成元年10月2日

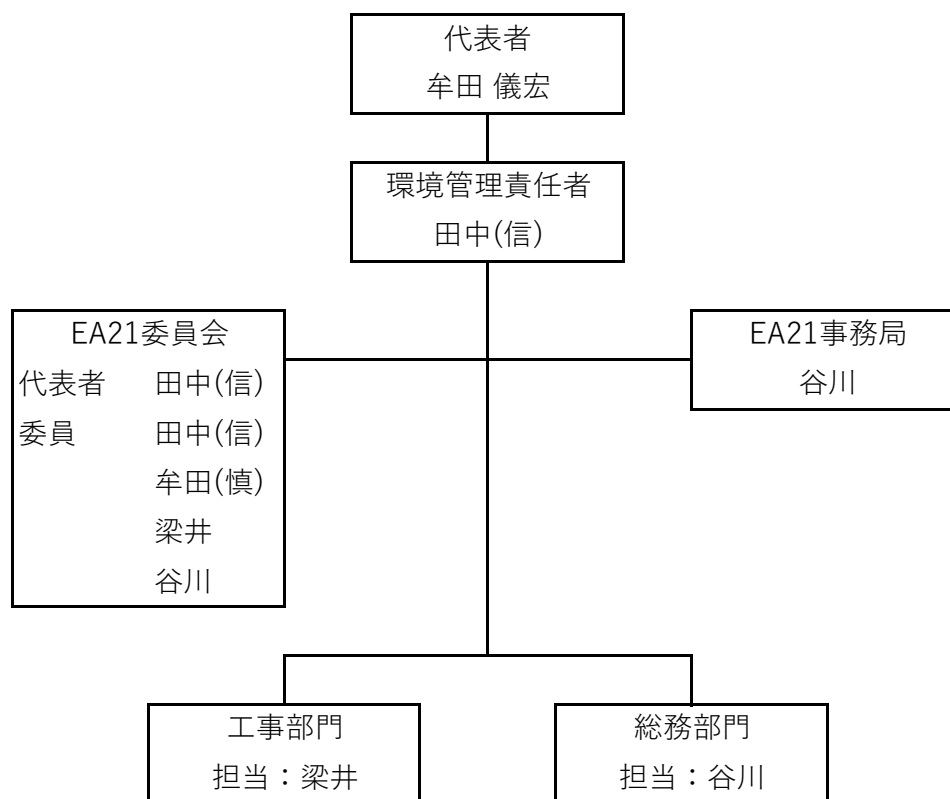
(8)資本金

2.34千万円

(9)組織図（エコアクション21実施体制図）

エコアクション21の活動のために以下のような実施体制を構築した。

定期的エコアクション21委員会を開催する。



2. 対象範囲

(1)対象組織

株式会社 牟田林業緑化

本社：〒841-0087 佐賀県鳥栖市河内町1728-2

倉庫： //

資材置場：〒841-0086 佐賀県鳥栖市牛原町別石1105-1

(2)対象活動

土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、管工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、造園工事業、水道施設工事業、解体工事業

(3)対象外組織・活動

なし

3. 環境経営方針

【環境経営理念】

株式会社 牟田林業緑化は、事業活動において想像力と感性を磨き、技術力と知恵を駆使して、継続的な環境保全に努め、自然と調和し、地域社会に溶け込み、生活の向上、社会の進歩と発展に貢献します。

【基本方針】

- ・環境保全に関する法令等を遵守します。
- ・環境経営の継続的改善を誓約します。
- ・省エネルギーによる二酸化炭素排出量の削減、省資源やりサイクルによる廃棄物排出量の削減、節水による水使用量の削減、環境負荷の低減に努めます。
- ・建設工事に伴う産業廃棄物については適切な処理を行います。
- ・化学物質使用量の削減のため、適正使用・適正管理に努めます。
- ・自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善のため、工事の工期短縮に取り組み、顧客満足の上と業務の効率化による働き方改革への取り組みを行います。
- ・全社員に環境経営方針を周知徹底し、環境保全に対する意識を向上させます。
- ・行政機関や環境団体等に協力をして、地域の環境保全活動に参加します。
- ・環境経営レポート等環境情報について、広く外部に公表します。

制定：平成29年11月20日

改定：令和 3年 5月 1日

株式会社 牟田林業緑化
代表取締役社長 牟田儀宏

4. 環境経営目標

当社では誓約した環境経営方針を実現するために、単年度と中長期の具体的な環境経営目標を5項目設定した。環境目標は平成30年度実績を基準年とした。化学物質使用量の削減については、化学物質使用量の適正管理とした。自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善に関する取組としては、令和3年度より「工事の工期短縮」に取り組むこととした。

環境目標	サイト 区分	単位	単年度目標	中長期目標	
			R4年度	R5年度	R6年度
1. 二酸化炭素排出量の削減		kg-CO2	142,423 (△4%)	140,940 (△5%)	139,456 (△6%)
①電気使用量の削減	事務所 現場	kWh	20,250 (△4%)	20,039 (△5%)	19,828 (△6%)
②ガソリン使用量の削減	事務所	L	5,560 (△4%)	5,502 (△5%)	5,444 (△6%)
	現場	L	6,073 (△4%)	6,010 (△5%)	5,947 (△6%)
③軽油使用量の削減	現場	L	40,024 (△4%)	39,607 (△5%)	39,190 (△6%)
2. 廃棄物排出量の削減					
①一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg	368 (△4%)	364 (△5%)	360 (△6%)
②産業廃棄物排出量の把握	現場	t	1,490 (△4%)	1,475 (△5%)	1,459 (△6%)
③建設現場における リサイクル推進	現場	%	100	100	100
3. 水使用量の削減	事務所	m3	406 (△4%)	401 (△5%)	397 (△6%)
4. 化学物質の 適正使用・適正管理	現場	kg	適正使用・適正管理		
5. 工事の工期短縮	現場	実施率 %	100	100	100

5. 環境経営計画

1.二酸化炭素排出量の削減

取組目標		サイト	環境目標達成の手段	担当者
(1)	電気 使用量の削減	事務所	エアコン設定温度調節（冷房時：28度 暖房時：20度）	谷川
			クールビズ、ウォームビズの励行	谷川
			休日のOA機器の主電源OFF	田中
			ノー残業デーの励行	田中
(2)	ガソリン 使用量の削減	事務所 + 現場	エコドライブ10への取り組み	田中
			外出の回数を減らすよう社内で確認をする	田中
			現場での忘れ物をしない	梁井
(3)	軽油 使用量の削減	現場	エコドライブ10への取り組み	田中
			現場での忘れ物をしない	梁井
			重機の不使用時のエンジン停止	梁井

2.建設廃棄物排出量の削減及び再資源化率の向上

取組目標		サイト	環境目標達成の手段	担当者
(1)	一般廃棄物 排出量の削減	事務所	分別回収の実施による再資源化	谷川
			コピー用紙の両面使用による廃棄量削減	谷川
			電子化の推進、紙使用量の削減	田中
(2)	産業廃棄物の 排出量の把握	現場	適正に排出量を把握する	牟田
(3)	産業廃棄物の リサイクル推進	現場	現場での産業廃棄物の分別の徹底 混合廃棄物ゼロを目指す	牟田

3.水使用量の削減

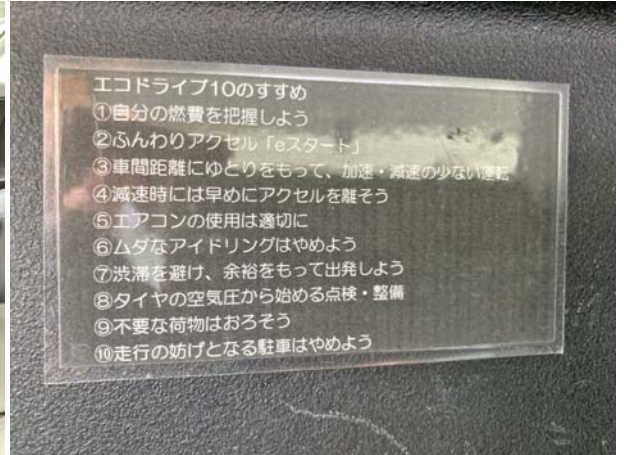
取組項目		サイト	環境目標達成の手段	担当者
(1)	水使用量の削減	事務所	井戸水に計量メーターを設置し、水使用量を記録する	谷川
			重機の洗車時には、泥を落として洗車する	牟田
			掃除、清掃の際に水を出しっぱなしにしない	谷川

4. 化学物質使用量の削減

取組項目		サイト	環境目標達成の手段	担当者
(1)	化学物質の 適正使用 適正管理	現場	対象化学物質のSDSにより安全管理・適正使用を行う	田中
			使用量を把握し、保管庫にて適正に保管する	田中

5. 自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善

取組項目	サイト	環境目標達成の手段	担当者
(1) 工事の 工期短縮	現場	工程会議の実施による工程の最適化	牟田
		提出書類の早目の作成	牟田



エコドライブ10のすすめ



エアコン推奨設定温度



資源ごみの分別収集



節水の呼びかけ表示

6. 環境経営目標に基づき実施した取組内容

令和4年度の環境目標の達成状況は下記のとおりである。

二酸化炭素排出量は達成でき、廃棄物排出量は、一般廃棄物は目標を下回り、産業廃棄物の排出量は受注工事の内容に影響を受けるものの、目標を大きく達成した。水使用量は目標を下回った。化学物質使用および環境に配慮した資機材調達、施工管理については、適正。

環境目標	サイト区分	単位	令和4年度		目標達成率 (%)	目標達成状況
			目標	実績		
1. 二酸化炭素排出量の削減		kg-CO2	142,423	140,225	102%	○
①電気使用量の削減	事務所	kWh	20,250	21,512	94%	△
②ガソリン使用量の削減	事務所	L	5,560	3,663.69	152%	◎
	現場	L	6,073	7,093.71	86%	×
③軽油使用量の削減	現場	L	40,024	39,371.15	102%	○
2. 廃棄物排出量の削減						
①一般廃棄物排出用の削減	事務所	kg	368.00	369.10	99.7%	△
②産業廃棄物排出量の把握	現場	t	1,490.00	1,201.97	124%	評価除外
③建設現場におけるリサイクル推進	現場	%	100	100	100%	○
3. 水使用量の削減	事務所	m3	412.00	101.10	408%	◎
4. 化学物質の 適正使用・適正管理	現場	kg	-	3.87	-	-
5. 工事の工期短縮	現場	実施率 %	100%	100%	100%	○

※二酸化炭素排出量計算における購入電力の排出係数 0.483kg-CO2/kWh(平成28年度調整後排出係数)

【達成状況の判定】

◎：達成率≧120% ○：達成率≧100% △：100>達成率≧90 ×：達成率<90

【実施状況の判定】

○：実行されている △：おおむね実施されている ×：実行されていない -：判定できない、該当しない

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組内容とその評価、

並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

令和4年の環境活動項目の取組状況と、今後の取組方針は下記のとおり。

1.二酸化炭素排出量の削減

取組目標		達成率 達成状況	環境目標達成の手段	実施状況	結果の評価と 次年度の取り組み
(1)	電気 使用量の削減	94% △	エアコン設定温度調節	○	■電気使用量 コロナ禍での換気による空調機器のロスが大きい。
			クール・ウォームビズの励行	○	
			休日のOA機器の主電源OFF	○	
			ノー残業デーの励行	○	
(2)	ガソリン 使用量の削減	事務所 152% ◎ 現場 86% ×	エコドライブ10への取り組み	○	■ガソリン使用量 事務所分は152%の達成である。現場については稼働状況に伴って目標を下回る。
			外出回数の削減	○	
			現場での忘れ物をしない	○	
(3)	軽油 使用量の削減	102% ○	エコドライブ10への取り組み	○	■軽油使用量 現場の稼働状況に伴って目標を下回る。重機の稼働によるところが大きい。
			現場での忘れ物をしない	○	
			重機の不使用時のエンジン停止	○	

2.建設廃棄物排出量の削減及び再資源化率の向上

取組目標		達成率 達成状況	環境目標達成の手段	実施状況	結果の評価と 次年度の取り組み
(1)	一般廃棄物 排出量の削減	99.7% △	分別回収の実施による再資源化	○	一般廃棄物は可燃ごみが約90%を占める。書類の電子化を進めて排出量の削減に努める。
			コピー用紙の両面使用による廃棄量削減	○	
			電子化の推進、紙使用量の削減	○	
(2)	産業廃棄物の 排出量の把握	124% -	適正に排出量を把握する ※削減量の評価はしない	○	
(3)	産業廃棄物の リサイクル推進	100% ○	産業廃棄物の分別の徹底	○	
			混合廃棄物ゼロを目指す	○	

【達成状況の判定】

◎：達成率≧120% ○：達成率≧100% △：100>達成率≧90 ×：達成率<90

【実施状況の判定】

○：実行されている △：おおむね実施されている ×：実行されていない -：判定できない、該当しない

3.水使用量の削減

取組目標		達成率 達成状況	環境目標達成の手段	実施状況	結果の評価と 次年度の取り組み
(1)	水使用量の 削減	408% ◎	井戸水に計量メーターを 設置し、使用量を記録する	○	隣接する住居での使用がな くなり、基準年を大きく下 回った。次年度の使用量に よっては目標を見直す。
			重機の洗車時には、泥を落 として洗車する	○	
			掃除、清掃の際に水を 出しっぱなしにしない	○	

4. 化学物質使用量の削減

取組目標		達成率 達成状況	環境目標達成の手段	実施状況	結果の評価と 次年度の取り組み
(1)	化学物質の 適正使用 適正管理	/	対象化学物質のSDSにより、 安全管理・適正使用を行う	○	適正な対処ができています。
			使用量を把握し、保管庫にて 適正に保管する	○	

5. 自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善

取組目標		達成率 達成状況	環境目標達成の手段	実施状況	結果の評価と 次年度の取り組み
(1)	工事の工期短縮	100%	工程会議の実施による	○	全社で取り組む必要がある 事項であるが、良好に実施 できており、更なる改善が 望まれる。
			工程の最適化		
			提出書類の早目の作成	○	

【達成状況の判定】

◎：達成率 \geq 120% ○：達成率 \geq 100% △：100 $>$ 達成率 \geq 90 ×：達成率 $<$ 90

【実施状況の判定】

○：実行されている △：おおむね実施されている ×：実行されていない -：判定できない、該当しない

【中長期環境経営目標】

環境目標	サイト 区分	単位	基準年 H30年度	次年度目標 R5年度	中長期目標	
					R6年度	R7年度
1. 二酸化炭素排出量の削減		kg-CO2	14,358	140,940 (△5%)	139,456 (△6%)	137,972 (△7%)
①電気使用量の削減	事務所 現場	kWh	21,094	20,039 (△5%)	19,828 (△6%)	19,617 (△7%)
②ガソリン使用量の削減	事務所	L	5,792	5,502 (△5%)	5,444 (△6%)	5,386 (△7%)
	現場	L	6,327	6,010 (△5%)	5,947 (△6%)	5,884 (△7%)
③軽油使用量の削減	現場	L	41,692	39,607 (△5%)	39,190 (△6%)	38,773 (△7%)
2. 廃棄物排出量の削減						
①一般廃棄物排出量の削減	事務所	kg	384	364 (△5%)	360 (△6%)	357 (△7%)
②産業廃棄物排出量の把握	現場	t	1,553	1,475 (△5%)	1,459 (△6%)	1,444 (△7%)
③建設現場における リサイクル推進	現場	%	100	100	100	100
3. 水使用量の削減	事務所	m3	423	401 (△5%)	397 (△6%)	393 (△7%)
4. 化学物質の 適正使用・適正管理	現場	kg	適正使用・適正管理			
5. 工事の工期短縮	現場	実施率 %	— —	100	100	100

※二酸化炭素排出量計算における購入電力の排出係数 0.483kg-CO2/kWh(平成28年度調整後排出係数)

【次年度の環境経営計画】

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		サイト	環境目標達成の手段	担当者
(1)	電気 使用量の削減 目標：1%	事務所	エアコン設定温度調節（冷房：28度 暖房：20度）	谷川
			クールビズ、ウォームビズの励行	谷川
			休日のOA機器の主電源OFF	田中
			ノー残業デーの励行	田中
(2)	ガソリン 使用量の削減 目標：1%	事務所 + 現場	エコドライブ10への取り組み	田中
			外出の回数を減らすよう社内で確認をする	田中
			現場での忘れ物をしない	梁井
(3)	軽油 使用量の削減 目標：1%	現場	エコドライブ10への取り組み	田中
			現場での忘れ物をしない	梁井
			重機の不使用時のエンジン停止	梁井

2. 建設廃棄物排出量の削減及び再資源化率の向上

取組目標		サイト	環境目標達成の手段	担当者
(1)	一般廃棄物 排出量の削減	事務所	分別回収の実施による再資源化	谷川
			コピー用紙の両面使用による廃棄量削減	谷川
			電子化の推進、紙使用量の削減	田中
(2)	産業廃棄物の 排出量の把握	現場	適正に排出量を把握する	牟田
(3)	産業廃棄物の リサイクル推進	現場	現場での産業廃棄物の分別の徹底 混合廃棄物ゼロを目指す	牟田

3. 水使用量の削減

取組項目		サイト	環境目標達成の手段	担当者
(1)	水使用量の削減	事務所	井戸水に計量メーターを設置し、水使用量を記録する	谷川
			重機の洗車時には、泥を落として洗車する	牟田
			掃除、清掃の際に水を出しっぱなしにしない	谷川

4. 化学物質使用量の削減

取組項目		サイト	環境目標達成の手段	担当者
(1)	化学物質の 適正使用 適正管理	現場	対象化学物質のSDSにより安全管理・適正使用を行う	田中
			使用量を把握し、保管庫にて適正に保管する	田中

5. 自らが施工・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善

取組項目	サイト	環境目標達成の手段	担当者	
(1)	工事の 工期短縮	現場	工程会議の実施による工程の最適化	牟田
			提出書類の早目の作成	牟田

8. 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
 令和4年度の事業活動において、環境関連法規への違反や訴訟はありませんでした。
 また、過去3年間に関係当局からの違反等の指摘もありませんでした。

関連法規名	主な遵守事項	遵守状況
廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物処分委託 ・マニフェストの交付・管理 ・産業廃棄物の保管基準 	○ 適切に実施
建設リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・対象工事の届出 ・再資源化の実施 ・実施の報告 	○ 適切に実施
オフロード法	<ul style="list-style-type: none"> ・特定特殊自動車は基準適合の確認 	○ 適切に実施
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・指定地域内における特定建設工事の場合 	○ 適切に実施
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・指定地域内における特定建設工事の場合 	○ 適切に実施
大気汚染防止法	<ul style="list-style-type: none"> ・特定粉塵作業に伴う届出・測定 	○ 適切に実施
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・使用済自動車の引渡義務 	○ 適切に実施
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・製品廃棄の場合の適正な引渡、処理料金の支払 	○ 適切に実施
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易定期点検 ・引渡義務、費用負担 	○ 点検を実施
消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・危険物の取り扱い 	○ 適切に実施
浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> ・設置届出 ・設置後等の水質検査 ・保守点検 ・定期検査 	○ 適切に実施

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

環境経営目標に対する実施結果と状況				評価・見直・指示事項	
【環境負荷軽減】				■二酸化炭素排出削減 目標をクリアしている。基準年(H30)からは4%の削減ができてい る。 ■廃棄物排出量の削減 一般廃棄物は可燃ごみが約90%を占 める。書類の電子化を進めて排出量 の削減に努める。 ■水使用量 隣接する住居での使用がなくなり、 基準年を大きく下回った。 ■化学物質 適正な対処ができてい る。 ■工事の工期短縮 全社で取り組む必要がある事項であ るが、良好に実施できており、更な る改善が望まれる。	
目標項目	昨年度 達成率	本年度 達成率	取組状況		
二酸化炭素排出量の削減	115%	102%	○		
(1)電気使用量	75%	94%	○		
(2)ガソリン使用量	事務所	113%	152%		○
	現場	87%	86%		○
(3)軽油使用量	131%	102%	○		
廃棄物排出量の削減			○		
(1)一般廃棄物	95%	100%	○		
(2)産業廃棄物排出量の把握	75%	124%	○		
(3)建設リサイクル	100%	100%	○		
水使用量の削減	133%	408%	○		
化学物質の適正使用・適正管理	—	—	○		
工事の工期短縮	100%	100%	○		
【環境関連法規の遵守状況】				令和4年度は、多量排出としての 報告を実施する(1000t以上/年)。 フロン排出抑制法への対処も実 施。	
法令に従って実施している。					
【外部からの苦情などの受付及び対応】					
長年緑地管理を行っている顧客より、害虫駆除の苦情があった。				対処法を提案し実施中である。	
【事故及び緊急事態の想定結果及び対応】				現時点で問題はない。	
【環境上の緊急事態の対応に関する試行及び訓練】					
事故の想定内容の変更はない。施行訓練は6月に実施した。					
【環境経営システム全体について】				公共工事の工期短縮が比較的よく達成できている。また、提出書類や打合せの電子化・WEB対応により紙 の使用量が減少している。燃料、資機材の価格高騰の今後の動向が懸念される。電子化、WEB化などによ り、企業活動の管理部分のスマート化を推進していきたい。	
エコアクションへの取り組みの定着したと判断される。建設工事に起因するエネルギー使用や廃棄物の排 出は不可避であるが、一般管理部分（事務、営業、管理）については、取組目標の実施は問題なくできて いる。次年度も同様に取り組みを実施していく。					
【見直しの必要性について】				計画の内容については随時検討を続けていく 問題なく実施できている	
①環境方針の変更の必要性	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無			
②環境経営目標の変更の必要性	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無			
③環境経営計画の変更の必要性	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無			
④実施体制の変更の必要性	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無			